

〒602-8580 京都市上京区新町上立売西入ル西大路町 61-1
TEL.075-251-3185 © 同志社大学体育会機関紙
Doshisha Sports アトム
令和6年(2024) 硬式野球部
発行人 渡邊達太郎
編集人 浅川明日香
05/24 金曜日
http://doshisha-atom.net/

譲れない戦いがここにある

同志社アトム

2・3面 選手紹介
4面 主将対談
5面 回顧録
裏面 応援団

立命大撃破へ
闘志燃やせ



雄たけびを上げる川久保
【切り込み写真】
バットを振る
(撮影・矢部彩香)



「応援してください」
方々や支えてくれた
仲間たちへの感謝の
気持ちを表現する

2024 CAPTAIN
川久保 瞭太
2002年12月14日生
170cm
76kg
遊 右/右
出身校 神奈川県・桐蔭学園
学部専攻 スポーツ健康科学部4年



KANSAI BIG 6
BASEBALL
LEAGUE
PLAY
BACK

2win 1 draw 0 goal win
2lose 1 draw 0 goal win
2win 1 draw 0 goal win
2lose 1 draw 0 goal win

順位	対戦相手	結果
10	同志社	1勝0敗0分
11	同志社	1勝0敗0分
12	立命大	5勝2敗0分
13	近大	2勝1敗0分
14	立命大	5勝1敗0分
15	立命大	5勝1敗0分
16	立命大	3勝1敗0分
17	立命大	5勝1敗0分
18	立命大	5勝1敗0分
19	立命大	5勝1敗0分
20	中	止
21	立命大	4勝1敗0分
22	立命大	2勝1敗0分
23	立命大	4勝1敗0分

同志社選手想スポンサー

有馬 伽久	中森 7	牧原 8	近藤 9
川久保 6	堀内 4	影山 5	高木 1
岡村 3	辻井 2		

MAX 148*左腕2年
5試合0勝4敗
回35安21轟28四球12
防2.06/リーグ6位
愛知県・愛工大名電高校

MAX 146*左腕4年
8試合2勝1敗
回40安28轟42三球12
防1.57/リーグ5位
福井工大福井高校

同志社に新たな歴史を刻むべく春季リーグ戦に挑んだ川久保。投手陣の奮闘で序盤こそ快進撃を見せたが、後半戦で優勝の夢がくすんでしまった。このまま終わることは許されぬ。再起に向け闘志を燃やした選手たちが、満員のわきさスタジアムを沸かすべく伝統の一戦に臨む。

「優勝争いを経験している中で、屈がなかった3年間は悔しい。針を動かさず、一針一針と歴史を刻んでいく。新時代に向けて、力を結集。新主将・川久保の下で12年間過ごしてきた。このまま終わることは許されぬ。再起に向け闘志を燃やした選手たちが、満員のわきさスタジアムを沸かすべく伝統の一戦に臨む。」

「道閉ざされた」
一優勝争いを経験している中で、屈がなかった3年間は悔しい。針を動かさず、一針一針と歴史を刻んでいく。新時代に向けて、力を結集。新主将・川久保の下で12年間過ごしてきた。このまま終わることは許されぬ。再起に向け闘志を燃やした選手たちが、満員のわきさスタジアムを沸かすべく伝統の一戦に臨む。

「チーム一丸で」
チームは序盤の7戦無敗から一転、2節連続の勝ち点献上でリーグ制覇を逃した。だが歴史的な先陣たちから受け継がれてきた伝統の一戦の重みが変わることはない。チーム一丸となつて勝利のために全力で戦った。昨秋にノーヒットノーランの回響を味わい、2連敗を喫した借りを返す時が来た。わかさスタジアムに駆け付ける多くの観客が勝利を願っている。宿敵立命大撃破へ。今シーズンの最後の戦いを笑顔で締めくくると、来季への架け橋とする。

「苦しんだ先に」
川久保は入学直後の春季リーグ戦でレギュラーを獲得し、不動の遊撃手として名乗りを上げた。2年生の秋には首位打者に輝くなど、リーグ屈指の実力者として君臨。だが、栄冠は一度も手が届くことなく迎えた。ラストイヤーに、胸中は複雑だった。チームの勝利につながるなら、どんな苦しみも厭わずに戦う。昨秋にノーヒットノーランの回響を味わい、2連敗を喫した借りを返す時が来た。わかさスタジアムに駆け付ける多くの観客が勝利を願っている。宿敵立命大撃破へ。今シーズンの最後の戦いを笑顔で締めくくると、来季への架け橋とする。

「熱い初心の情熱」
試合に勝つことよりも、よりうまくやりたい気持ちに従い、来る日も来る日も過酷な練習に打ち込んだ。「(高校時代に)関東大会で初めて優勝したことが一番の思い出」。血のいこうという言葉を胸に刻み、後悔しないよう己と向き合ってきた。

時こそ原点に立ち返る。結果にこだわらず、納得がいくまで反省点を改善。幾度の成長が主将の座に押し上げた。「フィジカルよりもスキルで勝負してきた野球は人生そのもの」。最後の学生野球にラストスパートをかけ、ホームを目指し駆け抜ける。

私たちは同志社硬式野球部を応援しています。

DOSHISHA HEROES × ATOM

YOUR Life Station

石髄会は同志社アスリートを応援しています

医療法人社団 石髄会
Medical Corporation Sekitetsukai
救急告示病院
臨床研修協力病院

京都田辺中央病院

TEL 0774-63-1111

〒610-0334
京都市田辺市田辺中央六丁目1-6
(近鉄新田辺駅から徒歩2分 JR田辺駅から徒歩3分)
https://www.sekitetsukai.kyoto

石髄会のInstagramはこちら
石髄会グループの魅力や情報を発信しております。

難敵に競り勝ち

リーグ後半戦へ勢いが増すべく、勝ち切りたい近大戦。第3戦もついに近大を破る。初戦は近大エース・北見を攻略できず、両者無得点を終盤へ。接戦の中動きを見せたのは同志社だった。8回に堀内(法3)の今試合3安打目となる左適時打が飛び出し、先制点を奪った。しかし、9回にマウンドへ上がった橋本裕(商3)が適時三塁打を浴び、同点に引き連勝を懸けて挑んだ3回

雨降る中行われた2回戦。5回に堀内の一打で勝ち越しに成功するも、守備では野邊が8回途中1失点と粘投一足元が悪い中、花野監督と指揮官をうならせた。次第に雨脚が強まる。5回、野邊が2安打を打ち、2アウトで勝利を取った。一年の秋からやってきたことを出した結果(川久保)。「自慢の投手陣が相手を押倒し、昨春王者を撃破。単独首位を守り抜き、優勝へ向け、段々ペースを上げた



セーフ判定に喜ぶ左・中田(スポ2)、右・山元(スポ4)

勝利

4/20~22 VS. 近畿大学 @ほっともっとフィールド神戸

波乱の幕開けだった。開幕戦はドラフト1位候補の金丸擁する関大を下した京大と対戦。接戦をものにし、連勝を果たした。初戦は中盤から打線がつかないまま7回終了時点で6点差をつける。しかし8回、相手に攻め込まれ2点差まで詰められた。迎えた最終回、無死満塁のピンチを招いたところで、指揮官は翌日に先発を予定していた野邊を起用。まさかの形で今季初登板となるも、2奪三振の好投を見せ7-5で勝ち切った。連勝で勝負を決めた2回戦は、3回に辻井(スポ2)の内野安打で先制点を奪取。しかし1点リードの6回、先発・野邊が同点に追

い付かれた。「点を取られたことが悔しい(野邊)。序盤から繰り広げられた投手戦は延長戦へ突入。得点圏にランナーを進めるも本塁は遠く、決着がつかなかった。運命の3回戦は2回に高木(商4)が先制を許す。反撃を図った打撃陣は、直後に牧原(商2)の適時二塁打で試合を振り出しに戻した。その後は膠着(こうちやく)した状態が続いたが、近藤(法2)が均衡を破る。ブルカウムの6球目、力強いスイングで放った打球は風に乗ってライトスタンドへ。値千金の一撃が飛び出し、勝利を挙げた。勢いのある相手を下した同志社。対近大戦へ弾みをつけた。

開幕戦好発進

0003022007	000001000001	0010000012
0000100405	001000000001	0100000001
1回 堀内 近大 川久保	2回 堀内 近大 川久保	3回 堀内 近大 川久保
4 8 2 9 6 3 7 5 1	4 8 2 9 6 3 7 5 1	4 8 2 3 7 9 6 5 1

勝利

4/13~15 VS. 京都大学 @マイネットスポーツアム皇子山

昨秋王者に連敗

全日本への鬼門となる対関大戦で、2敗1分けと厳しい戦いを強いられた。初戦は日本代表に抜てきされた金丸(関大)と対峙(たいし)した。打線の援護がない中、高木、清川、財原と無失点リレーでつなぎ、延長12回引き分けに持ち込んだ。紙一重の勝負を制したい第2戦。先発・野邊が4回まで最小失点で抑えたが、5回につままった。無死一塁の場面で右適時二塁打を放たれ、1点を献上する。その後は3投手をつぎ込むも、2安打4失点で火消しに失敗。打者一巡の猛攻を食い止められず、今季初黒星を喫した。翌日は3回にルーキー・影山(スポ1)が一発を浴びた。

PLAYBACK

2024 Spring League



5/5~7 VS. 関西大学

@ほっともっとフィールド神戸

先制に成功する。勢いに乗りたいところだったが、4回に高木が踏地を招き降板。6試合連続無失点の好投を続けていた清川にスイッチした。しかし、相手5番に甘く入ったスライダーを捉えられ、同点に追い付かれる。「流れを渡してしまっ(清川)と続く5回には守備のミスも絡み痛恨の勝ち越し打を許した。1点差で迎えた6回からは、1回戦で苦しめられた金丸が登板。強力なストレートに変化球を織り交ぜた配球で押され、手も足も出なかった。「もう負けられない(花野監督)。必勝が望まれた正念場だったが、拙攻拙守で勝ち点を落とし、首位から転落した。

逆転優勝に向け、絶対に諦めない対関大戦。1戦目は序盤から両軍共に投手陣が踏ん張りを見せた。11回まで許した失点を、初回に高木が取られた1点のみ。一方の打撃陣は7回に影山が同点打を放つが、相手投手陣を前に倒した。2回、中盤には不調にあえいだ川久保のバットが、2本の適時打が飛び出す。チームメイトの支えに支えられて良かった(川久保)。2回勝利。1勝1敗のタイに、25年ぶり神宮出場への夢が完全に消滅した。



5/18~20 VS. 関西学院大学

@南港中央野球場

胸上げ許し涙流す

迎えた運命の3戦目。勝てば頂点に一つ近づく。戦に選手たちの士気も高まっていった。しかし初回から劣勢に立たされる。高木が失策からピンチを拡大し先制される。6回には清川が5番打者に本塁打を許すなど許4失点。9回に大江(スポ2)の適時打で逆転。関大の優勝が決まる。

舞台裏の英雄 No.1

人知れず汗を流すスタッフの存在を忘れてはいけない。本号より栄光の舞台裏を支える裏方たちの素顔に迫った新企画が始まる。

主務 佐藤 紬子

(ざとう あやこ) 2002年10月18日生まれ。京都府・同志社高校出身。社会学部4年。

愛嬌満点な勝利の女神

新型コロナウイルス感染症の影響で最後の夏は、代替大会のみとなり、高校時代のマネジャー生活は不完全燃焼に終わった。その悔しい気持ちを晴らすべく、大学でも野球に携わりたいと決意。陰からチームの結束業務をこなしてきた。スポーツライターが当たらなくても、目標は同じ。選手(フーリスト)に選手(フーリスト)への熱い思いは、同志社をさらなる高みへと突き動かすに違いない。懸命に働く仲間のため、明るく笑顔で雄姿を見届ける。

学生コーチ 田中 良篤

(たなか よしあつ) 2002年8月22日生まれ。愛媛県立川之江高校出身。商学部4年。

経験糧に突き進め

選手時代に「何が課題なのか分からない」という悩みを抱えていた田中良篤。一方的に考えを押し付けるのではなく、共に思索することで練習の意図を明確にしてもらうよう気を配っている。試合時には花野監督の采配を先読みし、ブルペンでの投球練習を声掛け。難しいところだけ、「一緒に」首脳陣とのコミュニケーションに悩んできた。ピッチングの仕上がりを把握できていないと監督に叱責(しっせき)されることもある。それでも「(自ら)推薦で選手が活躍してくれることがやりがい」と話し、楽しみながら役割を全うして来た。「良い選手が集まっているから、これで勝てなかつたら仕方ないぐらいの自信を持っている」。チームに絶大な信頼を置き、今日もベンチに入る。

学生コーチ 眞壁 一佐

(まかべ かずさ) 2003年3月10日生まれ。京都府・同志社高校出身。スポーツ健康科学部4年。

真壁 一佐

心魂傾け基盤作る

「選手への末練はない。すがすがしい表情で語るその姿は自身の役割に対する誇りを感じさせる。大学2年時に裏方に徹する覚悟を決めた。「まずは練習しやすいように」と常にチームファーストの姿勢で組織に献身。トレーニングメニューの作成やノッカーを務め、学生コーチとして自分らしく活躍できる場所を見つけた。時には橋渡し役として首脳陣の考えをくみ取り、充実した練習環境を整備。チャンスで決め切る勝負強い野手陣をサポートし、勝利のために暗躍し続けている。ラストイヤーとなった今季も心の中で燃える情熱を原動力に任務を全うする。「選手たちが活躍してくれたら自分はそのために」。苦楽を共にしてきた仲間の背中を後押しし、着実に歩みを進める。

同志社校友会

Doshisha Alumni Association

同志社校友会事務局

〒602-0867 京都市上京区寺町通丸太町上る松陰町140-4
MAIL: info00@doshisha-alumni.org 電話: 075-251-4393

卒業生と繋がる 学生と繋がる 学生を支える

